

## ブライダルチェック項目について

### 【必ず受けてほしい検査】

- ・超音波検査…超音波により子宮・卵巣の状態を確認し、異常がないかを調べる検査です  
性交渉未経験の方は(経膈・経肛門)のエコーを選べます (腹部エコーも相談可)
- ・クラミジア検査…子宮頸部のおりものを採取し調べる検査です  
性交渉で感染するものであり、感染していると卵管の閉塞などを起こすことがあります  
(現在の感染を知ることができるもので過去の感染、感染の時期はこの検査では判断することはできません)  
\* 卵管通過検査のフェムビューや子宮鏡検査実施の際にも必要になる検査です
- ・採血検査  
(主に保険 \* 一部自費→感染症採血は自費、風疹は京都市にお住まいの方は公費(京都市以外は自費)となります)  
こちらに記載の検査はブライダルチェックであればすべて受けることおすすめしています。
- ・甲状腺機能…甲状腺機能の悪化があると胎児の発育および妊娠経過に悪影響(流産・早産など)を引き起こす  
可能性があるといわれています。
- ・プロラクチン…授乳中に分泌されるホルモンですが、授乳期以外に分泌されることにより排卵の抑制や  
流産しやすくなる場合があります。
- ・風疹抗体(公費が使用できるかはご相談ください)…風疹の免疫の有無を調べます。  
妊娠中に低い場合は風疹に感染する可能性があり、感染すると生まれてくる赤ちゃんに障害が出る場合があります  
(先天性風疹症候群)抗体が低い場合はワクチンを打つことができます  
(ワクチンを実施の際は2か月間の避妊が必要となります)
- ・感染症採血(B型肝炎、C型肝炎、梅毒、HIV)…主に性交渉で感染する感染症を調べます。パートナーや胎児へ  
感染することがあり一度調べておくと安心です
- ・テストステロン…男性ホルモンのことです。女性でも分泌されますが、過剰に分泌されている場合は排卵障害の原因に  
なる場合があります

## 【症状のある方にお勧めしています】

- ・貧血…月経量が多い方や食事の偏りやダイエットにより貧血になる可能性があります。  
貧血になると体調不良だけでなくホルモンバランスの乱れにつながり、結果的に不妊につながる可能性があります。  
立ち眩みや息切れ、疲れやすいなどの症状があれば一度検査することをお勧めします。

## 【オプション検査(自費になります)】

- ・AMH…アンチミュラー管ホルモンの検査です。卵巣内にどのくらいの卵が残っているかの目安を知ることができます。  
AMHの数値＝妊娠のしやすさではないですが、加齢によって徐々に低下していきます。数値によりどの程度治療や妊娠を急いでいく必要があるのかを考える目安にすることができます。  
多嚢胞性卵巣症候群の方は排卵がうまくいかないことが多いため平均よりも高く数値が出る場合があります。
- ・精子不動化抗体…精子を異物とみなし攻撃してしまう抗体の事です。  
抗体が高い場合は精子の運動を停止してしまうので自然妊娠が難しくなります。
- ・ビタミンD…日光浴をすることで合成されるビタミンですが、日焼け止めの使用などで日光を浴びる機会が減少していることからかなりの方が不足しているとされています。  
ビタミンDには受精卵を着床しやすくする効果やいい卵子を作る効果があるとされており、不足している場合はサプリメントを摂取することを推奨しています。